

# 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



## 『人との出会い』

国際言語文化研究科 M2 川口 勇作

私が名古屋大学に進学してから早くも2年が経とうとしています。この2年という期間は、言葉にすれば短かったですが、過ごしてみると長く、そしてつらいことや悲しいことなど、いろいろなことがありました。自信をなくしたことや、孤独を感じたこともあります。そんなとき、いつでも周りの人の支えがありました。名大に進学して心からよかったと思ったのは、ありきたりかもしれませんが、多くの人との出会いに恵まれたことだと切に思っています。

国言の先生方や先輩・同期・後輩には研究はもちろん普通の生活に至るまで本当にお世話になりました。特に同じ講座のメンバーとは、夜遅くまで研究室に残って研究や自分たちの将来について語り合ったり、一緒に修士論文を執筆したりしたのは本当にいい思い出です。また、国言には様々な専門の学生が集まっていたので、話をする中で視野が広がり、そこから新たな研究のヒントが得られたことも少なくありません。ともに研究を志す者として、同期の存在はいつも私にとってのいい刺激になっていました。

学内の他研究科の方や、学会・研究会などを通して知り合った他大学の先生方、学生の方との交流の中で得られたものも数えればきりがありません。他大学の院生さんと一緒に研究の話をしたり、学会発表をさせていただいた際に他大学の先生方からも建設的なコメントをいただいたりといった経験ができました。またM2になってからも、論文投稿、共同研究、研究会の立ち上げ・運営といった貴重な体験ができました。これらは学会や研究会に参加する機会に恵まれた名大ならではのメリットではないかと思います。

入学時には学校教員志望であった私ですが、こういった経験を経て、来年度からは博士後期課程に進学して研究を続けることになりました。これも入学してからのいろんな人との出会いがあつてのことです。多くの人との出会いが私を変えました。名大は「人生を変えた場」と言っても過言ではないかと思います。先の道程は厳しいと思いますが、これからも「人との出会い」を大事にしながら、研究に邁進したいと思います。

